令和4年度　学校経営報告　　東京都立日比谷高等学校　校長　梅原　章司

自己評価の基準：【A】十分達成できた【B】おおむね達成できた
【C】あまり達成できなかった【D】まったく達成できなかった

1　教育活動への取組	自己評価
【学習指導】 【目標】「質の高い授業の創造」と「教科マネジメント」の充実を図る。 【方策】 ① 生徒間の対話を通して考えさせ、表現させる授業を実践する。 ② 集団で学び、新たな気づきや発見のある授業場面を通して、自ら学びに向かい深く掘り下げることのできる生徒を育てる。 ③ 当該学年の教科チームとして生徒の成績推移や実態を把握し、それを踏まえた日常の補習や長期休業日中の講習を実施する。 ④ 教務部の適切な進行管理のもとに、生徒による授業評価結果を教科として分析し、学校として生徒へ文書でフィードバックする。生徒と教員とでよりよい授業づくりを目指す。 ⑤ 教務部と３学年・教科主任会・進路指導部が連携して、３学年特別時間割の講座設定について共通理解を図り、組織的・意図的に実施する。 ⑥ 国公立二次試験に対応できる教育課程を継続実施する。 ⑦ 「課題・補習・面談」を通して基本的な学力の維持・向上を図る。 ⑧ 理数探究基礎、理数探究Ⅰ及び理数探究Ⅱをより充実した内容で実施する。 ⑨ ３観点に基づくルーブリック評価について試行する。	【学習指導】 質の高い授業を創造するために、 ア　教員個々及び教科としての研究（通年） イ　管理職による授業観察と面談（年２回） を実施した。また、全科目において定期考査問題の共通化を継続した。【B】 ① 授業における「生徒間の対話」の場面を通して考えさせる取組は、一層拡大し、ほぼすべての授業で実施した。授業に対する生徒の肯定割合が前年度の 86%から 83%とやや減少したが、変わらず評価が高い。。 ② 授業を契機とし、自主的な学びに取り組む生徒が増えている。今後はより一層、教科間の知識を統合して学びを深く掘り下げることが重要である。 ③ 教科として教材の共有化や情報交換を進め、授業担当者による差異が出ないように努めた。生徒個別の成績状況等をデータベースや拡大進路部会において教員全体で共有した。また、年２回の進学指導検討会において各教科・科目及び学年全体の生徒情報の共有を図った。それに基づく補習・講習等を各教科で工夫し、実施した。 ④ 教科として授業評価結果の分析コメントを作成し、評価結果のデータとともに全校配布した。 ⑤ ３学年特別時間割については、大学別の講座を設定するなど、生徒本位の講座設定に努めた。 ⑥ 難関国立４大学及び国公立医学部医学科二次試験の受験予定者は 262 名、83%であった。 ⑦ 課題の提出について繰り返し指導するとともに、定期考査・小テストの実施後に基準に到達しない生徒に対し、個別のきめ細かな補習を実施した。さらに、担任による年４回の面談で、学習への意識を高める働きかけを行った。 ⑧ 新たに理数探究基礎に取り組み、探究力の基礎を構築するとともに、理数探究Ⅰ、Ⅱで探究活動を深化させ、２月の成果報告会において認められた。 ⑨ 令和２年度に作成し、３年度に改善したルーブリックにより、各教科で評価を実施した。 【生活指導・健康づくり】

【生活指導・健康づくり】 【目標】「生徒に寄り添い、生徒と向き合う指導」から自律した生徒を育成する。 【方策】 ① 進学校としてけじめ・メリハリのある授業規律・生活規律を確立するため、全教職員で生活指導にあたる。 ② 全校集会・学年集会やホームルームを通して、望ましい学校生活について生徒に考えさせる指導をするとともに、家庭及びＰＴＡとの連携を図る。 ③ スクールカウンセラーを活用し、生徒の心のケアなど教育相談機能の充実を図る。 ④ 年間を通して、生活指導部、保健部、学年と経営企画室とが連携したタイムリーかつ確実な環境整備を行う。（来校者の視点での環境整備）	あいさつ、時間管理、身だしなみ、授業規律などについて個々の教員からの声かけや投げかけなどを実施した。また、学年・全校集会を活用して自律的な生活の確立へ向けた働きかけを行った。時間管理（遅刻）について課題となる生徒は上級生で増える傾向があった。SNS の適切な使用については、継続指導していく必要がある。【B】 ① チャイムと同時の授業開始などは問題なく実施できている。今後も授業準備の事前徹底、鞄類を整理して机間通路の確保、机上整理など、より望ましい学習姿勢を全校で確立していく。 ② ホームルームや学年・全校集会等を通して生徒に考えさせる取組を実施した。保護者にも協力を依頼し、一体感のある指導に努めた。 ③ スクールカウンセラーと学年との連携を密にし、生徒の心のケアなど、教育相談機能を充実させた。 ④ 年間を通して環境整備に対する学校全体の意識が高まり、概ね整備できた。コロナ禍における学校説明会等について工夫して実施し、特に問題は見られなかった。
【進路指導】 【目標】「現役での生徒の進路希望の実現」を果たす。 【方策】 ① 学年集会、個人面談等を活用し、最後まであきらめさせない指導を継続する。 ② 学習支援クラウドやデータベース等により生徒情報を共有し、担任・教科担任・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励ます指導を行う。 ③ 進路指導部と学年とが連携し、生徒の第一志望実現へ向けた進学指導対策を立て、現役合格を達成する。 ④ 年２回の進学指導検討会後に、進路指導部・５教科主任会を開催し、具体的な学習指導対策を検討・実施する。 ⑤ 実力テストの実施にあたって、作問レベルや実施後の状況について全教職員で共有する。 ⑥ ３年生の成績データに基づいたケース会議を年２回開催し、個別指導や出願指導等で活用する。 ⑦ 医学部医学科の進路希望実現へ向けた対応を継続する。（医学部進学ガイダンス等の実施、面接指導の組織化）	【進路指導】 現役進学率は 69％であった。（前年度 74％）高い進路希望を実現させていくために、今年の受験結果の検証を進めて、次年度以降の指導へ生かしていく。今年度も生徒の成績データベースを基に、志望大学別のケース会議を実施し、教員間で目線合わせを行った。 第一志望を変えず、努力を重ねたが、難関国公立大学の現役合格者数は、昨年度を下回った。【A】 ① 学年のみならず、学校全体であらゆる場面を通して、あきらめさせない指導を貫いた。 ② データベース化した既卒生及び在校生の情報を全教員で共有し、それぞれの立場で励ましの指導を行った。学習支援クラウドを活用して、学習や特別活動の振り返り、資格取得等の記録を保存した。 ③ 学年集会、進路講演会、出願検討会など、進路指導部と学年とが連携し、目線合わせを十分に行って指導にあたることができた。現役合格率は更なる向上を目指す。 ④ ２学年の生徒に対する 11 月以降の地歴公民・理科の自学習の指針を継続提示した。 ⑤ 実力テストの作問レベルは事前に教科内で共通理解を図った。予想平均点・実際の平均点を比較し大問別の分析も行い、全員で共有した。

	⑥　11 月及び 1 月にケース会議を実施し、出願指導に活用した。 ⑦　進路指導部の主導の下、校内及び校外の人材を活用して、ガイダンスや面接指導を組織的に実施した。
【特別活動】 【目標】「文武両道」を奨励し、生徒の帰属意識を高める。 【方策】 ①　新入生への部活動参加を奨励する。 ②　体育大会・合唱祭・星陵祭を通して、全校生徒の成就感や達成感を高める。 ③　生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させる。 ④　ＳＳＨ事業及びGE-NET20 事業並びに海外学校間交流を安全かつ円滑に実施する。 ⑤　オンラインを活用した海外との交流を継続実施できる体制を整える。	【特別活動】 文武両道の伝統は確実に継承され、生徒の入学満足度は 89%と、前年度とほぼ同様であった。【B】 ①　コロナ禍のため、新入生への部活オリエンテーションを工夫して実施した。 ②　コロナ禍で学校行事について、制限された中での実施となったが、実行委員会中心に工夫してすべての行事について実施できた。 ③　生徒会活動や委員会活動は、顧問の支援の下で継続させることができた。生徒会・委員会による通信の発行や組織改編へ向けた検討など生徒たちの自主的・自律的活動が継続した。 ④　SSH 成果報告会では、運営指導委員から高評価を得た。海外派遣での研修は中止となったが、国内研修へと切り替え、また、Aspen とはオンラインによる研修を実施した。SSH のアメリカへの海外派遣研修は、沖縄における国内派遣研修として実施した。 ⑤　韓国姉妹校交流を始めとして、オンラインによる海外との交流を充実させることができた。
【募集・広報活動】 【目標】「本校を理解した上で第一志望とする生徒」の入学を進める。 【方策】 ①　学校見学会・説明会・授業公開等を通して、本校を理解した生徒・保護者に選んでいただく。 ②　生徒の活躍（学習、学校行事、部活動など）をタイムリーに学校ウェブサイトへ掲載する。 ③　各分掌が所管するウェブサイトの内容をより自主的に更新・情報発信していく。 ④　小学生とその保護者を対象とした学校説明会をより一層充実させる。	【募集・広報活動】 推薦に基づく選抜の応募倍率は男子が 2.39 倍（前年 3.06 倍）、女子が 4.33 倍（前年 3.87 倍）と男子で減、女子で増。学力検査に基づく選抜の応募倍率は男子が 2.59 倍（前年 2.50 倍）、女子が 1.96 倍（前年 1.77 倍）と男女とも増。【B】 ①　コロナ禍での制約の中、できる限り対面での各種活動を実施し、本校の教育理念・活動に共感する中学生・保護者に選択していただいた。 ②　対外活動が制限される中、生徒は多種多様な活躍をしたが、情報発信については、課題が残った。 ③　各分掌において、ウェブサイトの自主的な更新・情報発信には課題が残った。 ④　８月の小学生とその保護者対象の説明会及び体験授業について、感染予防に注意しながら実施できた。
【学校経営・組織体制】 【目標】「組織的な学校運営体制」を構築する。	【学校経営・組織体制】 企画調整会議を軸として、「組織的な学校運営体制」

【方策】 ① 企画調整会議と分掌部会との双方向性を維持する。 ア 企画調整会議と分掌部会との双方向性を継続することによって、全教職員の情報共有や経営参画を進める。 イ 学校経営上の課題について横断的に検討し、必要に応じて分掌等に働きかけ、教育活動の改善や新規事業の提案等を行う。 ② 教科主任会及び教科会の充実とともに教科間の連携を図る。 ア 教科ごとの学力分析・課題の把握・優れた実践の共有を進め、学習指導へと反映させる。 イ 教科として組織的な補習・講習の企画・立案・実施を進める。 ウ 教科間の連携を一層強化し、バランスのとれた指導体制を整える。 ③ 学校経営計画に基づき、各分掌が組織目標の設定、中間総括、年度末総括を実施する。 ④ 服務事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立させる。特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。 ⑤ 業務の見直しを行い、業務縮減を進める。 ⑥ 経営企画室による教育活動の支援を進める。 ア 来校者等への丁寧な接遇を行う。 イ 計画的・効率的に予算執行する。 ウ 施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕を徹底する。 エ 行政職員から見た教育活動等への提言を行う。	の再構築に取り組めた。【B】 ① 企画調整会議の内容伝達は、概ね円滑であった。 ア 全教職員による情報共有が円滑に行えるようになった。 イ 課題について横断的に検討するようになったが、改善に結びつくまでにはまだ課題がある。 ② 教科主任会及び教科会を充実させることができた。 ア 教科ごとの分析等は共有ができるようになったが、優れた実践の共有には課題がある。 イ 教科としての組織的な補習等は実践できている。 ウ 課題の出し方など、教科間の連携は今後改善が必要である。 ③ 予定通りに実施した。 ④ 体罰などは生じさせなかった。 ⑤ 勤務時間の長さなどの課題が残され、業務の見直しが一層必要である。 ⑥ 経営企画室について、積極的に教育活動を支援した。 ア 実施することができた。 イ 実施することができた。 ウ 日常の点検、管理について、週全統の迅速な対応ができた。 エ 行政職員と教職員との連携が密になり、情報の共有ができるようになった。
２ 重点目標への取組	自己評価
【学習指導】 【目標】生徒と教員とで質の高い授業づくり 【方策】 ① 教員間で年間を通して相互に授業を参観し合い、良さを共有する。 ② 11 月に授業に関する校内研修会を実施する。(授業の見せ合いと話し合いの実施) ③ 同一科目において、授業内容・授業進度をそろえ、定期考査問題の完全共通化を継続する。 ④ すべての教科・科目において、教科書レベルの授業内容を３年生 11 月までに終了させることを継続する。 ⑤ 全教員で「理数探究基礎」に取り組む。 【数値目標】 学習指導に対する生徒肯定割合８７％以上（前年度８６％） 理数探究（R5）の履修者数６０名（前年度５５名）、理数探究Ⅱ（R5）の履修者数１５名（前年	【学習指導】 授業評価アンケートの結果を学校としてフィードバックすることは継続できた。定期考査問題の完全共通化も継続した。【B】 ① 個々の教員の取組に加えて、一部では教科としての授業研究や改善を深めていくことが実践された。 ② 11 月の校内研修は、今年度から実施の理数探究基礎について、指導の共有化を図ることができた。 ③ 定期考査問題の共通化は 100％の実施率であった。 ④ ３年生については、すべての授業において、教科書レベルの内容を 11 月までに終了させた。 ⑤ 作業部会を中心に進行計画を立て、全教員で取り組むことができた。 【数値目標】

度１２名）	学習指導に対する生徒肯定割合は、83%と変わらず、高い。 理数探究の履修者数 20 名、理数探究Ⅱの履修者数Ⅲ名
【生活指導・健康づくり】 【目標】全教職員が一致して生徒と向き合う指導 【方策】 ① 学年集会や全校集会を活用し、生徒の意識や自覚を高めるための全教職員による一致した指導の実践（リーダーとしてふさわしい身だしなみ、時間・私物・貴重品管理・SNS の適切な利用に重点） ② 必要に応じてケース会議を開催し、心のケア等について迅速に情報共有するとともに、的確に対応する。 ③ 海外・国内からの多数の来校者の視点に立って、年間を通して日常的に校内点検を徹底し環境整備を行う。	【生活指導・健康づくり】 時間管理や身だしなみ等について学校全体で課題意識を共有し、指導にあたった。教員からの適切な投げかけを通して、生徒の自律的な生活態度を育成していくことは今後も必要である。【B】 ① 授業等において生徒への投げかけや声かけを「する・しない・できる・できない」についてまだ教員間の温度差はあるが、全体として前進した。 ② 生活指導部会の中で必要な情報共有をして対応した。また、スクールカウンセラーとの連携も円滑に実施した。 ③ 生徒と教職員とで力を発揮して、日常的な整備が徹底できるようになったが、教室環境整備は、まだ学年間で差があり、改善する。
【進路指導】 【目標】生徒の希望進路の実現 【方策】 ① 根拠となるデータに基づいた生徒への励ましの指導を実施 ② 生徒の高い志を堅持させ、第一志望を貫けるように支援する。 【数値目標】（　　）内は前年度の人数や達成率 ① 難関４国立大学及び国公立医学部医学科の現役合格者　１０６人以上（１０６人） ② 難関３私立大学の現役合格者　３２２人以上（３２１人） ③ 国公立大学の現役合格者　１５５人以上（１５０人） ④ 大学入学共通テスト５教科の総合得点率８０％以上の人数　１６０人以上（９８人） ⑤ 大学現役進学率　７５％程度を維持（７３％）	【進路指導】 難関国立４大学及び国公立医学部医学科の現役受験者数は 262 名と高い志望状況であった。また、東京大学の合格者数は全国の公立高校の中で１０年連続１位の実績をあげることができた。【A】 データベースを活用して３学年生徒全員のケース会議を実施し、高い志望を貫くことができるように支援した。 【数値目標】(3 月 31 日現在) ① 難関４国立大学（東京・東工・一橋・京都）及び国公立医学部医学科の現役合格者 58 人（東大理Ⅲ1 名含む）（達成率 55%） ② 難関３私立大学（慶応・早稲田・上智）の現役合格者 250 人（達成率 79%） ③ 国公立大学の現役合格者 106 人（達成率 71%） ④ 大学入学共通テスト５教科の総合得点率 80%以上の人数 144 人（達成率 90%） ⑤ 大学現役進学率は 69%（達成率 92%）
【特別活動】 【目標】文武両道を追求する生徒の育成 【方策】 ① 部活動の加入奨励 ② 各行事における生徒会や実行委員会生徒の育成 ③ 全校集会等における生徒会役員及び委員会から	【特別活動】 コロナ禍で厳しい条件下ではあったが、学習とともに学校行事、部活動、生徒会活動、委員会活動などに取り組む生徒がほとんどであった。【B】 ① 今年度は工夫して部活動加入を奨励することができた。

の連絡場面の設定 ④　行事準備時間と部活動時間との割り振りを適切に行い、効果的・効率的な運営を行う。 【数値目標】 学校行事に対する生徒肯定割合９０％以上（前年度９０％）	②　生徒会による自主的な組織等の改革が進行中である。実行委員会生徒が主体的に活動し、コロナ禍においても工夫して、体育大会、合唱大会、星陵祭を成功させた。 ③　オンラインによる全校集会では毎回生徒会会長や委員会委員長からの連絡場面が設定された。 ④　コロナ禍においても工夫して、割り振りを適切に行うことができた。 【数値目標】 学校行事への生徒肯定割合 89％とほぼ達成（前年度 90％）
【募集・広報活動】 【目標】本校を理解した生徒の獲得 【方策】 ①　生徒会外務部との協力体制を継続し、生徒の視点からのＰＲ活動を行う。 ②　帰国生・都外生を対象としたオンライン講演会を継続実施するとともに、民間主催の説明会へも参加する。	【募集・広報活動】 ①　学校見学会、学校説明会などを可能な限り対面で実施し、本校の教育理念や教育活動に共感する中学生・保護者に選択をしていただいた。 ②　海外や都外在住の中学生対象の説明会及び懇談会を実施した。また、学校ウェブサイトに相談窓口を開設し、メールで対応した。さらに、塾主催の帰国生対象相談会へ参加した。 【Ｂ】
【学校経営・組織体制】 【目標】ＰＤＣＡマネジメントサイクルの実働化 【方策】 ①　分掌部会における主任からの報告、資料回覧、ＴＡＩＭＳ送信等により、企画調整会議の内容を確実に伝達する。 ②　意見聴取事項については、分掌主任が部会での検討結果を企画調整会議で報告する。 ③　学校経営計画及び分掌組織目標を踏まえ、教職員個々の自己申告における目標設定を行う。 ④　全分掌が、学校経営計画に基づく年間組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施するとともに、学校運営連絡協議会・学校ウェブサイトで公開する。	【学校経営・組織体制】 学校経営計画に基づく各分掌のマネジメントサイクルが主任を中心に整備できた。【Ｂ】 ①　企画調整会議の内容伝達は、概ね円滑であった。 ②　意見聴取事項は適切に対応した。 ③　引き続き、教職員の目標設定を検証可能な、より具体的なものへとしていくことが必要である。 ④　予定通りに実施した。
３　次年度以降の課題	対応策
【教科マネジメントの確立】 ①　「集団での学び」と「個での学び」の継続実施。「生徒間の対話のある授業実践割合」と「大学入試問題への対応力」を高めていく。 ②　３学年特別時間割の更なる充実を図る。	①　授業内では非常勤教員・時間講師も含めて「生徒間の対話による学び」を今後も継続して実施し、生徒の思考力・判断力・表現力を高める。同時に、授業・土曜講習・夏期講習において大学入試対応の学びを確保し、必要な問題解答力を高める。 ②　特別時間割における講座の設定・内容を進路指導部・教務部・学年とで組織的に行い、３

【生徒の高い進路希望の実現】 ① ２学年 11 月から地歴公民及び理科の自学指針に基づく働きかけを継続させ、３学年夏季の模擬試験における５教科の成績向上を図る。 ② 医学部医学科志望者の増加を踏まえ、計画的な学力向上・面接対応力向上を組織的に継続する。 ③ 学習支援クラウドの使用を継続し、生徒に「振り返りと見通し」をもたせて、学習・生活・進路に対する高い意識を持続させる。	学年全体の大学入試へ向けた機運の醸成と実効性を高める。 ① 前年度の取組状況や模擬試験結果を踏まえ、２学年 11 月以降の具体的な働きかけとその実施について、発展・継続させる。３学年の夏季の模擬試験における５教科の成績向上については、５教科で数値目標と対応策を示し、全教員に周知する。 ② 「医学科志望者ガイダンス」や「面接指導」を一層充実させる。 ③ 生徒に学習や行事等の振り返りを通して自らを省察させ、先を見通しながら学習・生活・進路に対する意識の向上を図る。
【広報・募集活動の活性化と入選倍率の向上】 ① これまでの広報・募集活動に加え、海外・他県・国立・私立からの応募者増を成し遂げ、応募倍率の向上を果たす。	① 海外帰国子女に対する民間主催の学校説明会への参加、校内での懇談会等の実施、ウェブサイトにおける相談窓口を継続し、応募者増につなげる。
【令和４年度からの新学習指導要領への対応】 ① 全科目において、精度の高い観点別評価を実施する。 ② 主体的・対話的で深い学びの実現へ向け、校内無線 LAN を活用した学習指導について前進させる。 ③１年の「理数探究基礎」について、今年度の課題を改善し、２年の「理数探究」の充実を図る。	① 今年度の観点別評価による評価を検証し、より正確な評価になるよう、改善をはかる。 ② BYOD による指導実践を進め、共有する。特に一人一台端末を持った生徒に対する学習指導内容を検討し、共有を図る。 ③ 作業部会を中心に、「理数探究基礎」の内容及び計画の充実を図る。